

地方創生と外部人材

はじめに 地方創生と外部人材

日本全体の人口減少が進む中で、各地で地方創生の取組が推進されている。近年では、地域おこし協力隊、関係人口等といった外部人材を活用した取組が注目されている。そこで、本稿では、外部人材を活用した地方創生を進める上で知っておきたいことについて、ポイントを絞って紹介したい。

その1 逃げ切れない世代(しなやかな世代)

今現在、三つの世代が同時に生きている(図-1)。三つとは、「逃げ切れる世代」「逃げ切りたいけど、逃げ切れない世代」、そして「逃げ切れない世代」。今の社会システムは、右肩上がりの時代(人口増加、経済成長)を前提に作られている。どうも逃げ切れない世代には、今の社会シ

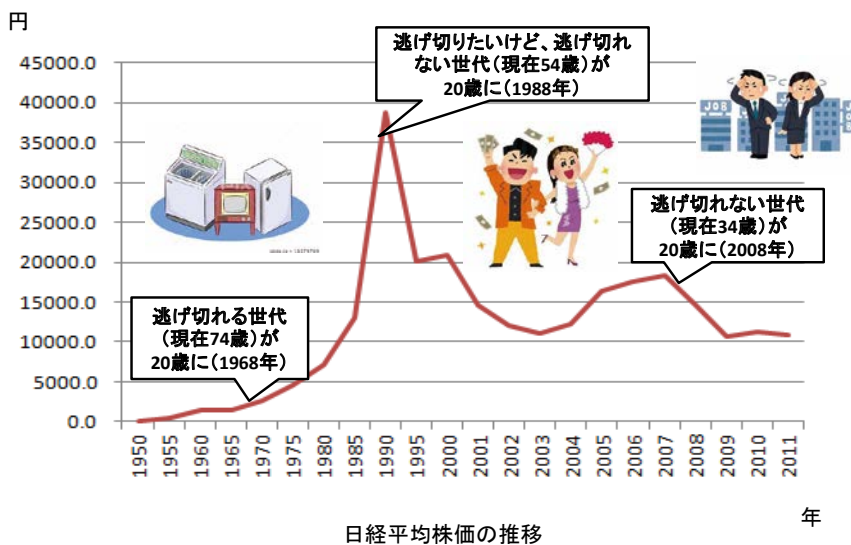


図-1 三つの世代

テムが時代の変化についていけずにギシギシと軋む音が聞こえているようだ。この逃げ切れない世代が、自分らしい生き方を模索して地方(地域)に関心を寄せている。地方移住のキーワードは「ワーク・ライフ・バランス」「地域貢献」、そして「農ある暮らし」。逃げ切れない世代は、このキーワードの下、自分らしい生き方をしなやかに模索し始めている。ここからは「逃げ切れない世代」では、あまりにもネガティブに聞こえるので「しなやかな世代」と呼ぶことにしたい。

その2 地域づくりの足し算と掛け算

ここで、外部人材を活用した地域づくりの考え方「地域づくりの足し算と掛け算」(図-2)を紹介したい。これは「地域づくりには段階がある」という考え方で、その段階とは、第一段階の「地域住民の主体性の獲得」と第二段階の「地域住民による地域づくりの実践」である。そして、外部人材は、段階に合わせた支援を行う。地域住民の主体性が獲得されていない地域の地域力は-2とイメージしてみよう。地域力-2に、いきなり×2(掛け算の支援)をすると地域力は-4となり、地域づくりは頓挫する。そこで、まずは、地道に+0.5・・・(足し算の支援)をする。次に、地域力が+0.5になった時点で×2・・・をすると、地域づくりがうまく進む。



認定NPO法人ふるさと回帰支援センター 副事務局長 **稲垣 文彦** (いな がき ふみ ひろ)

その3 たくましい田舎×しなやかな世代

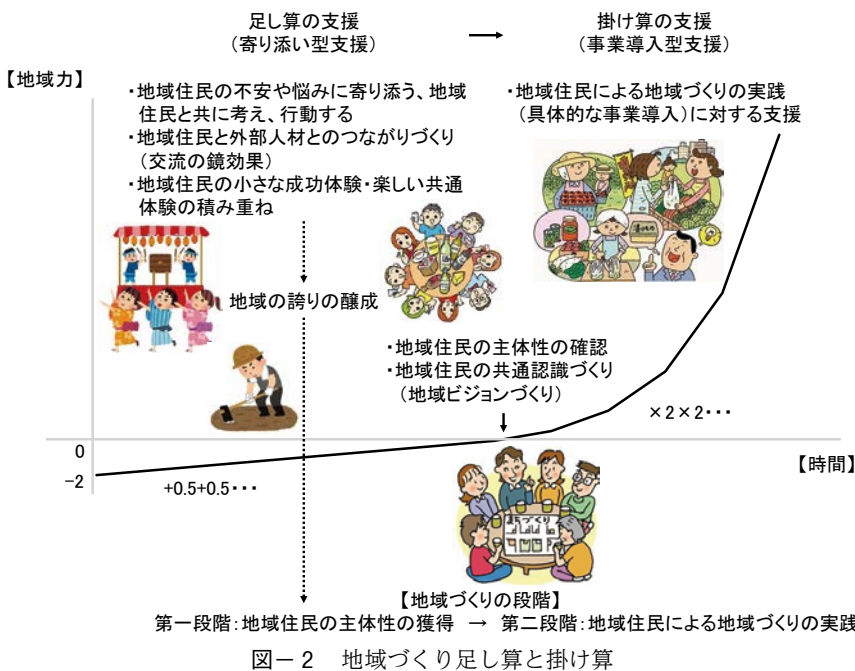
ここからは、先の考え方を下にした地域と外部人材との関りがもたらす互いの変化を見ていく。まずは、地域に入った外部人材の声を紹介しよう。「地域の人たちと触れ合う中で生きている喜びを感じられました」「なりたかった自分が見つかった」。次に、外部人材を受け入れた地域リーダーと住民の声を紹介しよう。「地域を活性化させるには、起業とか商品開発とかそんなことを考えていた。でも、ここに暮らす人達同士が集まって、

世代を超えて笑いながら話ができる、そんな場を作ることが一番の活性化になるんだって、(外部人材から)学びました」(リーダー)。「あなた達(外部人材)が来てくれて、家に明かりが灯された。それがすごく嬉しかったのよ」(住民)。最後に、都会から地方に移住した若者の声を紹介しよう。「都会では、賢い大人に出会った。地方では、たくましい大人に出会えました。私は、たくましい大人になりたいので、ここに移住することにしました」。これらの声から地域(たくましい田舎)と外部人材(しなやかな世代)の足し算的な関りが

双方に変化をもたらしていることがわかる。そして、その変化とは「自分・地域のモノサシ」の再確認と言える。言い換えれば「他人・世間のモノサシ」からの脱却と言えよう。

おわりに 自分のモノサシ 地域のモノサシ

人口減少、度重なる自然災害、そして、パンデミックと先が見えず、どのように生きていけば良いか正解がない時代、益々「自分・地域のモノサシ」の重要性が高まっている。その意味で、しなやかな世代とたくましい田舎の挑戦にエールを送りたい。



【著者紹介】 稲垣 文彦 (いな がき ふみひろ)

1967年新潟県長岡市生まれ。長岡技術科学大学大学院工学研究科博士後期過程修了、博士(工学)。専門は災害復興と地域づくり。国の地域おこし協力隊、関係人口、地方移住の施策等の普及・人材育成等に尽力。主な著書として「震災復興が語る農山村再生 地域づくりの本質」(2014) コモンズ等。他に(公社)中越防災安全推進機構理事等。